241111	路上業局₹	等専門学校	開講年度 令和05年度 (2	2023年度) 技	受業科目	学外実習I			
科目基		,	,	, ,					
科目番号		0080		科目区分	専門/選	R			
授業形態実験・実習			222	単位の種別と単位数	履修単位:				
開設学科		建築学分		対象学年	4	+12.1			
開設期		集中		週時間数					
<u> 教科書/</u>			の手引き	Zerillixx	I				
担当教員		天元 宏	אני ניפיא						
		八九五							
到達目									
美智活動 る。	がを通して、	社会人として	この倫理・マナー・規律、さらに、協調	間性と コミュニケーショ	ン能力を身に	つけ、実習内容の報告、発表ができ			
	舒目標:B:90	0% F:10%	、 JABEE教育目標: d4:90% f:10%	, D					
ルーブ	リック								
· · · · · ·			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの)目安	未到達レベルの目安			
評価項目	1		実習先でスケジュールに従い積極 性を伴い意欲的に実習に取り組む ことができる。	実習先で決められたるに従い実習に取り組むる。	ンケジュール	実習先で決められたスケジュール に従い実習に取り組むことができ ない。			
評価項目	12		学外実習の日報および報告書が学 外実習の目的・意義に沿った内容 で書き提出することができる。	学外実習の日報およて 要十分な内容で書き扱 ができる。		学外実習の日報および報告書が提 出することができない。			
評価項目	13		学外実習の目的・意義を理解した 上での実習内容とその成果を報告 会で発表できる。	学外実習の目的およて その成果を報告会で発	実習内容と 表できる。	実習内容とその成果を報告会で発 表できない。			
学科の	到達日煙	項目との関							
			カラック (1777) 教育到達度目標 D 学習・教育到達度目] 煙 F				
		NY D TH 13	以口到建议口际 4 丁日,我日却建反日	小 6 丁日 (⊐'l⊼ !				
教育方	<u> </u>	<u> </u>	**************************************	+/== ==================================	·				
学外の企業 概要 概要 実習日誌と おお、企業			業等で5日間以上、30時間以上の実習を行う。実習活動を通じて、社会人としての倫理・マナー・規律、さらにとコミュニケーション能力を身につけ、また、技術者としての自己を確立する動機付けとする。 と実習報告書を提出し、専門分野で実施される報告会で報告する。 業での実習は、長期休業中に行う。						
履修方法や その後、実 授業の進め方・方法 ・実習遂行 ・実習成果			や注意事項などについてガイダンスを受けた後、実習を行う企業等を決定し、長期休業期間中に実習を行う。 実習報告書を作成し、専門分野で実施される報告会で報告する。						
			テへの配点60点:報告書の提出、報告を行なったことに対する配点。 果への配点40点:20点を基準として、報告内容に応じて+-20点の範囲で配点する。 を合格とする。						
注意点		企業等の この実習)協力があって初めて成り立っている科) 万への礼儀や感謝の念を忘れないよう]で得た体験をなんとしても役立ててや	にしましょう。		<u> </u>			
授業の	属性・履	修上の区分	<u> </u>	T					
□ アク	ティブラー:	ニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応		☑ 実務経験のある教員による授業			
授業計	画								
		週	授業内容	週ご	との到達目標				
		週 1调	授業内容		との到達目標 科目の履修方				
		1週	事前指導 1	この	科目の履修方	法や注意事項が分かる。			
				この 学外	科目の履修方				
		1週 2週	事前指導 2	この 学外 が理 学生	科目の履修方 実習に携わる 解できる。 の希望を元に	法や注意事項が分かる。 上でのマナー、心構え、取り組み方 事務局と担任の打ち合わせにより配			
		1週	事前指導 1	この 学外 が理 学生 属を	科目の履修方 実習に携わる 解できる。 の希望を元に 決定すること	法や注意事項が分かる。 上でのマナー、心構え、取り組み方 事務局と担任の打ち合わせにより配 ができる。			
		1週 2週	事前指導 2	この 学外 が理 学生 属を ・企験 ・企験 ・等と	科目の履修方 実習に携わる 解できる。 の希望を元にと 決定すののが出ま 等る事習結果	法や注意事項が分かる。 上でのマナー、心構え、取り組み方 事務局と担任の打ち合わせにより配 ができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を			
	1stQ	1週 2週 3週	事前指導 1 事前指導 2 実習企業等の決定	この 学が理 学属・体・ ・体・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	科 実解 の決 業す々連 業す々 個 にき 望す 内事実を 内事実を 内事実を 内事実を 内が習り のが習り のが習り のが習り のが習い のが習い は いき は	法や注意事項が分かる。 上でのマナー、心構え、取り組み方 事務局と担任の打ち合わせにより配 ができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を る。 をその日の内に担任の指導下で企業 有意義な実習ができるよう準備でき 指壽者の指示に基づいて各種実習を			
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週	事前指導 1 事前指導 2 実習企業等の決定 企業等担当者との連絡	この 学が 学属・体・等る・体・指・体・	科 実解 の決 業す々連 業す々者 業す々 目 習で 希定 等るの絡 等るのに 等るのにき 望す 内事実を 内事実報 内事実報 内事実 のが習ら のが習ら のが習ら のが習ら のが習ら のが習ら 変 深来 まる 選 来 果る 選 来 まる	法や注意事項が分かる。 上でのマナー、心構え、取り組み方 事務局と担任の打ち合わせにより配 ができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を る。 をその日の内に担任の指導下で企業 有意義な実習ができるよう準備でき 指壽者の指示に基づいて各種実習を る。 をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を			
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週	事前指導 1 事前指導 2 実習企業等の決定 企業等担当者との連絡 企業等での実習	こ 学が 学属・体・等る・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・な・指・な・指	科 実解 の決 業す々連 業す々者 業す々者 業す々者 いた	法や注意事項が分かる。 上でのマナー、心構え、取り組み方 事務局と担任の打ち合わせにより配 ができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を る。をその日の内に担任の指導下で企業 有意義な実習ができるよう準備でき 指壽者の指示に基づいて各種実習を る。 をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。			
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週	事前指導 1 事前指導 2 実習企業等の決定 企業等担当者との連絡 企業等での実習 企業等での実習	こ 学が 学属・体・等る・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・	科 実解 の決 業す々連 業す々者 業す々者 業す々者 業す々者 関連 で 希定 等るの絡 等るのに 等るのに 等るのに 等るのに 等るのに 等るのに 等るのに 等るのの にき 望す 内事実を 内事実報 内事実報 内事実報 内事実報 内事実報 内事実出替 のが習告 のが習告 のが習告 のが習告 のが習告 のが習ら 変出 表記 実出 表記	法や注意事項が分かる。 上でのマナー、心構え、取り組み方 事務局と担任の打ち合わせにより配 ができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を る。 をその日の内に担任の指導下で企業 有意義な実習ができるよう準備でき 指壽者の指示に基づいて各種実習を もる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を え。 をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を る。をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を る。その日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。			
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	事前指導 1 事前指導 2 実習企業等の決定 企業等担当者との連絡 企業等での実習 企業等での実習	こ 学が 学属・体・等る・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・	科 実解 の決 業す々連 業す々者 業す々者 業す々者 業す々者 業す々者 異す々者 異す々者 異す々者 異す々者 異すな者 異なのに 等るのに 等るのに 等るのに 等るのに 等るのに 等るのに 等るのに 等る	法や注意事項が分かる。 上でのマナー、心構え、取り組み方 事務局と担任の打ち合わせにより配 ができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を る。をその日の内に担任の指導予準備でき 指壽者の指示に基づいて各種実習を 指壽者の指示に基づいて各種実習を をその日の内に実習日誌に記載し、 をそのの内に実習日誌に記載し、 をその日の内に実習日誌に記載し、 をその日の内に実習日誌に記載し、 ををその日の内に実習日誌に記載し、 ををその日の内に実習日誌に記載し、 をそその日の内に実習日誌に記載し、 をそその日の内に実習日誌に記載し、 をそその日できる。 指壽る。をその日できる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を をそその日の内に実習日誌に記載し、 をその日の内に実習日誌に記載し、 ををその日の内に実習日誌に記載し、 ををその日の内に実習日誌に記載し、			
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	事前指導 1 事前指導 2 実習企業等の決定 企業等担当者との連絡 企業等での実習 企業等での実習 企業等での実習	こ 学が 学属・体・等る・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・指・体・	科 実解 の決 業す々連 業す々者 業す々者 業す々者 業す々者 業す々者 単す々者 単す クラス いこう いこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう い	法や注意事項が分かる。 上でのマナー、心構え、取り組み方 事務局と担任の打ち合わせにより配 ができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を る。をその日の内に担任の指導下で企業 有意義な実習ができるよう準備でき 指壽者の指示に基づいて各種実習を をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。 指壽者の指示に基づいて各種実習を をその日の内に実習日誌に記載し、 ことができる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 にとができる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 にとができる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 にとができる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 にとができる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 にとができる。 をその日の内に実習日誌に記載し、 にとができる。 をことができる。			

		11ì	<u>周</u>	学外到	外実習報告会で発表			専門分野内での報告会で報告することができる。				
		12ì	_									
		13ì	_									
		14ì	_									
		15ì	_									
		16ì	_									
		1週										
後期		2週										
		3週										
	3rdQ	4週										
	Jiuq	5週										
		6週	6週									
		7週	7週									
		8週	8週									
		9週										
		10ì	周									
		11ì	11週									
	1±b-O	12ì	12週									
	4thQ	13ì	13週									
		14ն	14週									
		15ù	15週									
		16ì	周									
モデルコ	アカリニ	キュラ	ラムの	学習	内容と到達	目標						
分類			分野			 学習内容の到達目標	5			到達レベル	授業週	
						<u> </u>		、役割を認識して	行動でき	3		
						る。				3		
1						法令やルールを遵守	合やルールを遵守した行動をとれる。			3		
						他者のおかれている	おかれている状況に配慮した行動がとれる。			3		
						技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に			が社会に	3		
					1	負っている責任を挙げることができる。						
					I	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。				3		
						その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かってい くために現状で必要な学習や活動を考えることができる。				3		
					Ī	キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。				3		
					<u> </u>	これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべ				3		
						きことを多面的に判断できるなど)を認識している。 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどの				3		
						ように活用・応用されるかを説明できる。						
					態度・志向性	企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。				3		
/\		+ 4	応 態度・記 力) 性	+-		企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。				3		
分野横断的 能力	態度・清 性(人間	志问 引力)		心门		企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己 の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。 企業には社会的責任があることを認識している。				3		
					1 1					3		
						企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。				3		
					調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界 の抱える課題を説明できる。				3			
					企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要である ことを認識している。				3			
					社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識 している。				3			
					技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。				3			
						技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。				3		
						高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。				3		
						企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。				3		
亚海剌						コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき 3 能力」の必要性を認識している。				3		
評価割合	=_B		5v		+p - = ≅ /=	能存	- ₽	フの出		:L		
₩△===/===	試験		発表		相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合			
総合評価割る		0		0		0	0	100	0	10	U	
基礎的能力	0			0		0	0	0	0	0		
専門的能力	0			0		0	0	0	0	0		

分野横断的能力	lo	Λ	0	Λ	100	ln '	100
ノノエバリ央ロハロンカロノノ	0	U	U	U	1100	U	1100